

走れ（東京書籍 4 年上）について

尾道市立高須小学校 北川智之

（1）教材について

登場人物は主人公ののぶよ、主人公の弟のけんじ、母親の 3 人である。本文は運動会の朝、けんじの短距離走、のぶよの短距離走についての 3 場面に分けられる。

のぶよは、弟のことを気遣いながらも、自分が走ることに對して不安でしかたなかった。お母さんとけんじの気持ちがわかるからこそ、板ばさみになって自分の気持ちを出せずにいた。そんな中で、短距離走がスタートした。始めは体が重くて、もう走れないと思ったが、けんじとお母さんの応援によって、自分らしく走ることができた。

本教材は、のぶよの立場から書かれているので、のぶよの気持ちは比較的読み取りやすい。しかし、直接的にのぶよの気持ちが書かれていないところもあり、前後からのぶよの気持ちを読み取っていく必要があるところもある。一方で、けんじや母親の気持ちは、直接的には書かれていない。そのため、前後から推論して読み取っていく必要がある。

4 年生の子ども達は、総合で「2 分の 1 成人式」を行うこともあり、少しずつ大人に近づいている。ここまで大きく育ててくれた家族への感謝の思いも少しずつ見られてくる。一方で、まだ子どもらしい思いもあり、自分の思いだけで行動したいところもある。

本教材を読み、子ども達は、主人公ののぶよと同じで短距離走の順位ばかり気にしている自分がいたことに気づくであろう。しかし、読み進めていく中で、家族の応援によって「順位よりも自分らしく走りきったらいい」というのぶよの気持ちの変化に気づくことで、自分は運動会の短距離走をどんな気持ちで走るかについて考えるであろう。その中で、家族の支えがあるから今、自分が楽しく生きていることについて深く考えることができる教材であると考えられる。

（2）学習目標について

① 価値目標

国語科「読むこと オ」では、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」が指導事項になっている。

そこで、4 学年の道徳 4 - (3)「主として集団や社会とのかかわりに関すること 家庭愛父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。」と関連づけて、「家族と支え合いながら、楽しい生活を送ることについて考えること」を価値目標として位置づける。

② 技能目標

(ア) 関連する学習指導要領の指導事項の中心は、読むことウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」である。

(イ) この指導事項を受け、本単元では、「場面の移り変わりに注意しながら、中心となる人物に気をつけて、様子や気持ちを考えながら読むこと。」を中心に指導する。

本教材では、のぶよの立場から書かれているので、中心となる人物であるのぶよの気持ちをしっかりと読み取ってもらいたいので、このように変えた。

(ウ) また、これらに加え「文中から見えにくい気持ちを推論して読むこと。」も技能目標とする。本教材では、けんじやお母さんの気持ちが直接的に書かれていないため、文中から気持ちを推論して読むことで子ども達の読みが深まると思い、技能目標として付け加えた。

③ 態度目標

運動会の短距離走を走る前の自分の気持ちを発表し合う。また、運動会を見に来てくれている家族はどんな思いで自分を見ているのかについて考える。

（3）言語活動と活動目標

「家族の人物になりきって本音トークをしよう」という活動目標を設定し、のぶよ、けんじ、お母さんの 3 人の立場に分かれ、それぞれ場面ごとに学習するクラス内ジグソー学習を設定する。

場面ごとにどんな思いをしていたのかについて、3 つのグループごとに話し合い、全体交流を行う。その中で、他の人物がどのように思っているのかについて話し合う。その後、グループで分かれた登場人物に向けて、自分の感想を書く。ただし、第 3 場面は全員のぶよの立場で学習する。

最後に、活動目標としてグループで分かれた登場人物へ手紙を書く。

(4) 方法と評価

活動目標＝単元名（家族の人物になりきって本音トークをしよう）全5時間

	言語活動	学習目標	評価方法
導入 1 / 5	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会当日の気持ちを発表し合おう。 ・短距離走を走る前の自分の気持ちを考える。 ・運動会を見に来てくれている家族の気持ちを考える。 <p>（第1時）</p>	<p>（態度目標形成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短距離走の順位を気にしているのは自分だけではないことや足が速い人、遅い人、それぞれの気持ちに気づく。 ○運動会で頑張る自分の姿を見た家族は、我が子の成長を嬉しく思っていることに気づく。 	<p>（ノート・発表）</p>
展開 4 / 5	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス内ジグソー学習をしよう。 ①クラスの中で3コースに分かれる。 ・クラスの中でのぶよ、けんじ、お母さんの3コースに分かれる。 ②コース別に学習する。 ・コースごとにそれぞれの場面においてどんな気持ちだったかについてについて話し合う。 ・のぶよコースは文中からのぶよの気持ちを読み取る。 ・けんじ、お母さんコースは、文中から気持ちを推論して読み取る。 ③全体交流を行う。 （家族の人物になりきって本音トークをしよう。） ・各コースで学んだことをクラス全体に伝え、交流し合う。 ④グループで分かれた登場人物に向けて、自分の感想を書く。 ・全体交流で出てきた意見を踏まえて、手紙を書く。 <p>※1, 2場面では、1時間の授業で①～③を繰り返す。ただし、3場面については、全員のぶよグループで学習する。</p> <p>（第2, 3, 4時）</p>	<p>（技能目標形成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が学習したいコースを選択する。 ○自分のコースの登場人物の気持ちを読み取る。 ○他のコースの意見を聞き、考えを深める。 ○自分の気持ちを手紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの登場人物の気持ちを読み取ることができる。 <p>（発表・ワークシート）</p>
終結 5 / 5	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで分かれた登場人物へ手紙を書こう。 	<p>（価値目標形成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族の人に支えられて、楽しい生活を送ることができていることを実感しながら手紙を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（手紙）

(5) 最後に

「走れ」を一読したとき、この教材を通して子ども達に何を伝えていけばいいかわからない自分がいました。自分読み、児童読み、教師読みを通してわからないままでした。そんな中で、多くの先生方から学ばせていただきながら、「走れ」の教材研究を行う中で感じたのは2つあります。

まず1つ目は、筆者が誰の立場に立って作品を書いているかを考えながら読むということです。そうすることで、この作品はのぶよの立場から書かれていることに気づき、けんじやお母さんの気持ちが直接的に表れていないことにも気づくことができました。だから、けんじやお母さんの気持ちは文中から推論して読む必要性があることがわかりました。

2つ目は、1つ1つの言葉を丁寧に読み取っていくということです。「走れ」では、第3場面で「走れ！そのまんま、走れ！」という言葉がありました。のぶよは走るのが遅く、短距離走に出るのが憂鬱だったけれども、『そのまんま』でいい、自分らしく走ったらいいというメッセージがこの言葉に込められていることに気づきました。『そのまんま』という一言にとっても大きな意味が含まれていることを感じました。

改めて教材研究の難しさ、大切さを学ばせていただきました。物語を教材研究するときに、作者は誰の立場に立って書いているのか、1つ1つの言葉の意味を大切に読み取っていくことを意識していきたいと思います。

最後に、多くの先生方からアドバイスをいただき、本当にありがとうございました。